

**重要!**

**誰もが通いたくなる、子どもを真ん中にした魅力的な学校に!**

☆不登校に関する国や県の動向☆

★「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」  
(COCOLO プラン) (令和5年3月文部科学省)



- 1 — 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
- 2 — 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
- 3 — 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

★【新岡山県不登校総合対策】OKAYAMA 夢につながる学びプロジェクト  
～誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて～ (令和6年4月岡山県)

- ① 学校を、子どもたち誰もが通いたくなる魅力ある場所とします。
- ② 子どもたち・保護者と丁寧なコミュニケーションを図ります。
- ③ 子どもたちに、多様な学びの場を用意します。



① 学校を、子どもたち誰もが通いたくなる魅力ある場所とします。

授業や学校行事、校則の在り方などを振り返り、これまでの教師主導の教育活動から、子どもを真ん中にした教育活動へ転換しましょう。



「失敗を恐れず挑戦できる」場所

3つの柱の中で、  
全ての校種で、  
全ての教職員に、  
改めて見つめ直  
していただきたい  
ことのみ今回は  
紹介します。

### 振り返りの視点

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| □「みんな同じ」を過度に要求していないか | □学校が決めたきまりが最優先となっていないか     |
| □手厚すぎる指導・支援をしていないか   | □「学校の常識」というバイアスがはたらいっていないか |
| □画一的な一斉授業となっていないか    | □子どもが主体的に考え、判断する場が不足していないか |
| □結果ばかりにこだわっていないか     |                            |

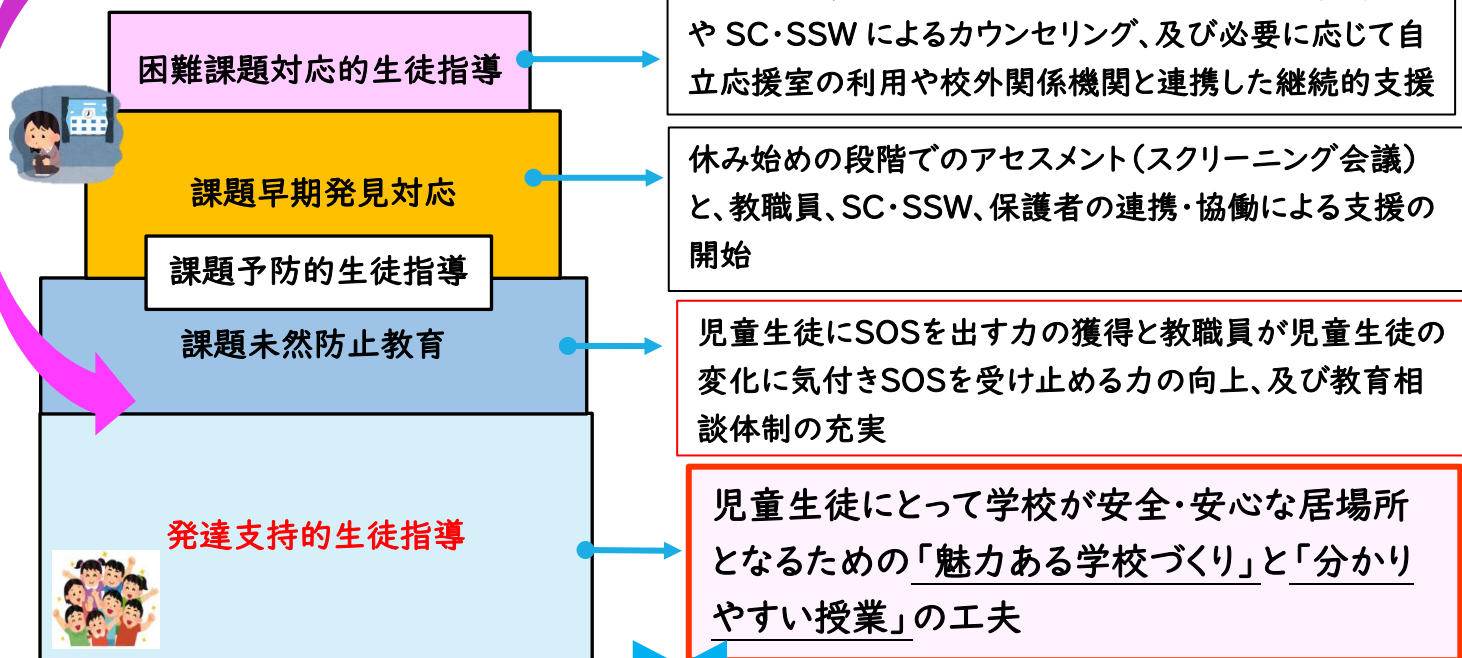
### 大切にしたいこと

- ① 「学校の常識」を問い直すこと
- ② 学びを子どもに委ねること
- ③ 自己決定の場を充実させること
- ④ 教師は子どもの伴走者となること

## ○長期欠席・不登校対策の2つの視点

- I **欠席が長期化**している児童生徒への対応(主に困難課題対応・課題早期発見対応)
- II **新たな不登校**を生まない取組(主に課題未然防止教育・発達支持的生徒指導を中心に)

### 不登校対応における重層的支援構造



『生徒指導提要(改訂版)』より作成

### ★発達支持的生徒指導とは？

- ① 全ての児童生徒が対象……………課題のある児童生徒だけではない!
- ② 教育課程内外の全ての教育活動で行う……………最も長い「授業」が勝負!
- ③ 発達支持的というのは、児童生徒に向き合う際の基本的な立ち位置…「させる」から「支える」へ!
- ④ 児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重…………「教師主導」からの転換!
- ⑤ 発達の過程を学校や教職員が支えていくもの…………「ティーチング」+「コーチング」

- ★「**授業**」「休み時間」「行事」「部活動」「給食」「掃除」などの**あらゆる場面**において
- ★「笑顔」「共感」「挨拶」「声かけ」「励まし」「賞賛」「対話」などの**言動**で
- ★「個人」に対して、「集団」に対して両方から働きかける
- ★**日頃、そして今日みなさんが行った「その言葉かけ」、「その行動」が発達支持的生徒指導につながっています。「今日もいっぱい生徒指導を行った!」と思える先生はたくさんいると思います。**

### Mini 研修

☆みなさんの学校や教室の魅力は何ですか?授業や行事などで子どもが真ん中になっていないことはありませんか?自分たちの学校について、もう一度考えてみましょう!

### まとめ

発達支持的生徒指導を中心とした学校づくり・学級づくりは、子どもにとっては学校に通いたくなることはもちろん、学校全体の課題対応の減少にもつながることが期待されます。子ども、保護者、教職員みんなが笑顔になりたいですね!